

せとうち発見の道企画展

「竹田喜之助の仕事 一新収蔵資料展 2-1」

2025 年 9 月 2 日～ 11 月 30 日

於 瀬戸内市民図書館

協力：（公財）瀬戸内市歴史まちづくり財団



竹田喜之助（たけだ・きのすけ）は、瀬戸内市が生んだ世界的な糸あやつり人形師です。瀬戸内市では、喜之助の偉業を顕彰し、文化の振興を図るため、人形劇の祭典である「喜之助フェスティバル」・「喜之助人形劇フェスタ」が続けられてきました。

本展では、昨年度に続き、近年寄贈された遺品の中から、デザイン画などの関係資料を紹介し、喜之助の作品づくりの一端に触れていただきます。

◆薬事新報社の週刊『薬事新報』に連載された喜之助人形の解説

1979 年 6 月（1020 号）から 11 月（1042 号）まで合計 21 回、『薬事新報』の表紙写真に喜之助人形が使われ、喜之助自身が撮影、その解説を執筆しました。

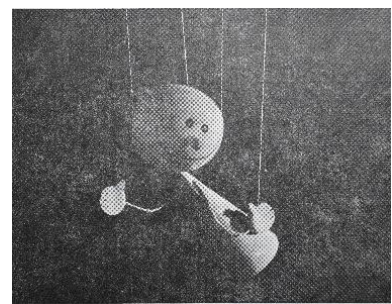
再びかしらなんてものは……

竹 田 喜 之 助

「かしらなんてものは……」と言った人がもう一人います。文楽の人形つかい桐竹紋十郎師です。明治 33 年生れ、内面的でしかも艶のある華やかな演技で一世を風靡し、昭和 39 年人間国宝になった人です。師が亡くなる少し前、万博の仕事で大阪に居た私は、梅田の病院へお見舞いに行きました。話好きの師は、こちらのとめるのもきかずベッドに起き直って話しづめ。そのうち、師に頼まれて私が作った文楽のかしらのことになり、「つかい良くて、よう出来ている。誰にもわたさず大事にしている。新しい作は、古いものにはかなわぬと言う人もいるが、そんなことは絶対ない……」、過分なおほめで、いや、そう思って恐縮していると、「かしらなんてものは、新聞紙を丸めただけでもいい……」ときた。師はそれで十分芝居をしてみせると言う。三之助師にしても紋十郎師にしても、人形つかいとしての自負と気概が、こう言わしたと思います。

人間の作ったもの、例えば道具にしても機械にしても、性能のいいものほど形も美しい。人形だって動きのいいものは、それだけ形もいい筈。人形を活かすも殺すも人形つかいのイキーつなら、人形芝居を活かすも殺すも、人形の出来次第とも言えましょうか。

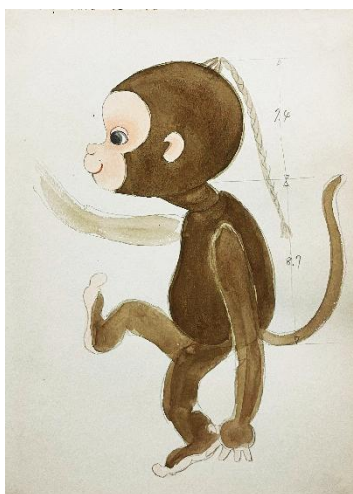
『薬事新報』No.1037（1979 年 10 月 4 日）



表紙写真

◆喜之助の人形デザイン（スクラップブックから）

喜之助は人形製作にあたって、衣装を含めたデザインを描きましたが、中には、寸法や材質に関するメモを書き入れたものなどがあります。



孫悟空？



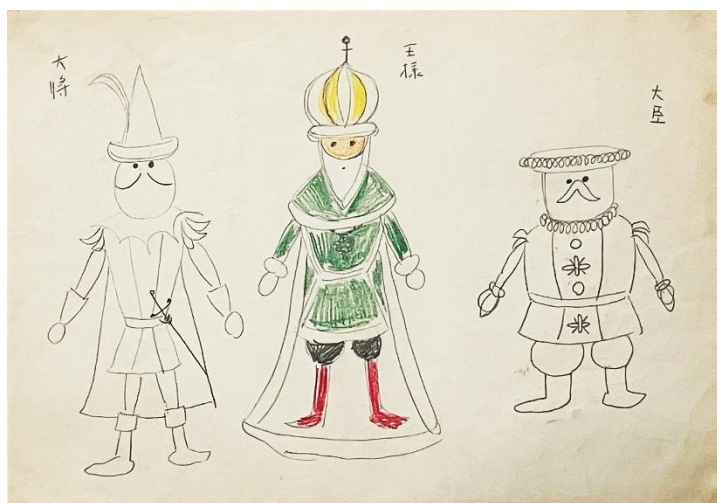
「城主」



「金山寺和尚」



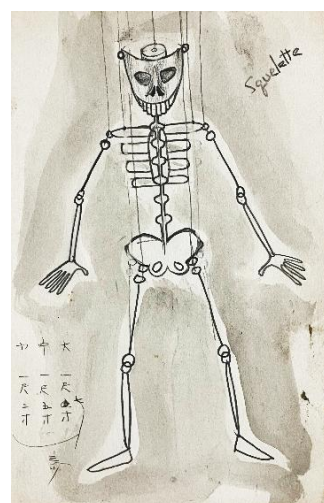
「しょうき様が笑った」



「大將」

「王様」

「大臣」



「Squelette」（がいこつ）



「NHK うらしま 鶴」



◆喜之助の写真アルバム「旅公演」から



舞台に立つ竹田喜之助
1976年 岡山公演



竹田人形座のトラックの前で（右端が喜之助）
1976年 秋田県五城目町 石川旅館

【竹田喜之助（たけだ・きのすけ）関連年表】

- 1923年 6月27日 岡本隆郎（おかもと・たかお、後の竹田喜之助）は、岡山県邑久郡邑久村尾張（現瀬戸内市邑久町尾張）に生まれる。父・岩雄、母・多津恵の長男。岡本家は呉服商を営み、母・多津恵は岡山県邑久高等女学校の教師だった。
- 1937年 邑久尋常小学校（現瀬戸内市立邑久小学校）卒業。子どもの頃から絵や書、音楽などに親しむ。
- 1941年 岡山県立第一中学校（現岡山県立岡山朝日高等学校）卒業。
- 1943年 第六高等学校（現岡山大学）理科卒業。
東京帝国大学工学部航空工学科入学。大学では演劇部に所属。第二次世界大戦中、病氣療養のため郷里に戻る。終戦を契機として航空工学科は廃止された。
- 1950年 東京大学第二工学部機械工学科卒業。
結城孫太郎一座に入る。芸名は結城糸城三（ゆうき・しきそう）。
一座は師匠夫婦と結城孫昌（後の竹田扇之助）、養女の4人だけだった。
- 1955年 結城孫太郎一座は竹田人形座となり、竹田喜之助と改名。
竹田人形座が東京都指定無形文化財になる。
- 1956年 「宝島」ハンスの首（かしら）が光風会工芸展に入選。
- 1957年 「雪ん子」が文部省芸術祭奨励賞を受賞。
- 1959年 「寿竹田三番叟」の首一式が日本伝統工芸展に入選。
- 1961年 「喜之助人形展」（白木屋日本橋店/東京）開催。作家・安藤鶴夫の肝いりで開催した。
安藤は「喜之助人形」の名付け親でもある。
- 1968年 竹田扇之助とともにヨーロッパ、アフリカ、アメリカ等の人形劇団を訪ねて親善公演を行う。以降、国際交流基金の援助を得て海外公演を行う。
- 1970年 大阪万博の住友童話館で「つる」を連日公演する（1442回）。
- 1972年 一座による第1回ヨーロッパ公演。
- 1975年 第2回ヨーロッパ公演。
- 1976年 第3回ヨーロッパ・ソビエト公演。第12回ウニマ大会と国際人形劇フェスティバルに招聘される。ユネスコ主催のパリ日本文化祭でも舞台公演を行う。
- 1977年 母校である邑久小学校で「橋弁慶」「雪ん子」を公演。
- 1979年 8月31日稽古の後、バイクで帰宅途中に自宅付近で交通事故に遭う。
9月5日逝去（享年56歳）。
- 1988年 第1回「人形劇の祭典～喜之助フェスティバル・邑久」開催。以降、原則として毎年開催。2018年「喜之助人形劇フェスタ」に名称変更。
- 1990年 日本ウニマ（国際人形劇連盟日本センター）名誉会員となる。
- 1991年 邑久町名誉町民（現瀬戸内市名誉市民）となる。
- 1992年 ウニマ（国際人形劇連盟）名誉会員となる。

『喜之助人形』（1998年、竹田喜之助顕彰会）、『第六高等学校同窓会報』第10号（2011年）などより作成